**受難節第３主日　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　2024年３月３日**

**「戸をたたき続ける」**

**イザヤ書43章4節**

**43:4 わたしの目にあなたは価高く、貴く／わたしはあなたを愛し／あなたの身代わりとして人を与え／国々をあなたの魂の代わりとする。**

**使徒言行録12章６～19節**

 **12:6 ヘロデがペトロを引き出そうとしていた日の前夜、ペトロは二本の鎖でつながれ、二人の兵士の間で眠っていた。番兵たちは戸口で牢を見張っていた。**

 **12:7 すると、主の天使がそばに立ち、光が牢の中を照らした。天使はペトロのわき腹をつついて起こし、「急いで起き上がりなさい」と言った。すると、鎖が彼の手から外れ落ちた。**

 **12:8 天使が、「帯を締め、履物を履きなさい」と言ったので、ペトロはそのとおりにした。また天使は、「上着を着て、ついて来なさい」と言った。**

 **12:9 それで、ペトロは外に出てついて行ったが、天使のしていることが現実のこととは思われなかった。幻を見ているのだと思った。**

 **12:10 第一、第二の衛兵所を過ぎ、町に通じる鉄の門の所まで来ると、門がひとりでに開いたので、そこを出て、ある通りを進んで行くと、急に天使は離れ去った。**

 **12:11 ペトロは我に返って言った。「今、初めて本当のことが分かった。主が天使を遣わして、ヘロデの手から、またユダヤ民衆のあらゆるもくろみから、わたしを救い出してくださったのだ。」**

 **12:12 こう分かるとペトロは、マルコと呼ばれていたヨハネの母マリアの家に行った。そこには、大勢の人が集まって祈っていた。**

 **12:13 門の戸をたたくと、ロデという女中が取り次ぎに出て来た。**

 **12:14 ペトロの声だと分かると、喜びのあまり門を開けもしないで家に駆け込み、ペトロが門の前に立っていると告げた。**

 **12:15 人々は、「あなたは気が変になっているのだ」と言ったが、ロデは、本当だと言い張った。彼らは、「それはペトロを守る天使だろう」と言い出した。**

 **12:16 しかし、ペトロは戸をたたき続けた。彼らが開けてみると、そこにペトロがいたので非常に驚いた。**

 **12:17 ペトロは手で制して彼らを静かにさせ、主が牢から連れ出してくださった次第を説明し、「このことをヤコブと兄弟たちに伝えなさい」と言った。そして、そこを出てほかの所へ行った。**

 **12:18 夜が明けると、兵士たちの間で、ペトロはいったいどうなったのだろうと、大騒ぎになった。**

 **12:19 ヘロデはペトロを捜しても見つからないので、番兵たちを取り調べたうえで死刑にするように命じ、ユダヤからカイサリアに下って、そこに滞在していた。**

　**皆さんはどのような時に戸をたたくでしょうか。よその家に行った時、その家の人に用事があって呼び出す時に戸をたたきます。あるいはその家の中に入れて欲しい時に戸をたたきます。もっとも、最近は玄関にインターホンを付けている家がほとんどですので、戸をたたくのではなくインターホンを押してその家の人を呼び出すでしょう。家族であればわざわざ戸をたたかなくても、勝手に戸を開けて家の中に入ると思います。**

**ですから、戸をたたくということは、基本的には家族ではない誰かが家の外にいて家の中の人に用事があるから戸をたたくのです。その家の人と話がしたい、届け物を渡したい、家に上げてもらいたい、その用事は様々でしょうが戸をたたいて開けてもらうのを待つのです。すぐに開けてもらえることもあれば、手が離せない用事をしていてなかなか開けてもらいえないこともあります。もちろんですが、家の人が留守で開けてもらえないこともあります。戸をたたいても開けてもらえない時私たちはどこまで戸をたたき続けて待ち続けるでしょうか。せいぜい2～3分というところでしょうか。それで戸を開けてもらえなかったら改めて出直すというのが私たちの日常だと思います。**

　**「戸をたたき続ける」今日の聖書箇所でペトロが戸をたたき続けました。いったいどのくらいの時間戸をたたき続けたのかはわかりませんが、ひたすらに戸をたたき続け、さらには中にいる教会の仲間たちの名前を呼んだのです。**

**家の中にいる教会の仲間たちはどうしたのか、ペトロはいったいなぜ戸をたたき続けたのか、そしてこの物語を通して神様は私たちに何を語りかけようとしておられるのか、共に御言葉に耳を傾けていきたいと思います。**

**ヘロデ王は教会を迫害し使徒ヤコブを殺害しました。さらにペトロも捕らえられ牢に入れられて絶体絶命のピンチに追い込まれました。教会ではペトロのためにさらには教会を迫害するヘロデ王のために執り成しの祈りが熱心に、うまずたゆまずこつこつと行われていました。**

**そんな牢にいるペトロに天使が現われて天使の導きによってペトロは牢から脱出することができました。最初は夢か現実かわからなかったペトロですが、はっと我に返って言います。「今、初めて本当のことが分かった。主が天使を遣わして、ヘロデの手から、またユダヤ民衆のあらゆるもくろみから、わたしを救い出してくださったのだ。」（11節）これは主の御導きなのだ、主が私を救い出して下さったのだ。ペトロは初めて分かった本当のことを誰よりもまず教会の仲間たちに伝えたいのです。そしてこの喜びを分かち合いたいのです。**

**そこでペトロは普段からこの家が教会の集会でよく用いられていたのでしょう、マルコと呼ばれていたヨハネの母マリアの家に行きました。教会の仲間たちがそこで祈っていることをペトロは知らないはずですが、恐らくここに集まって祈っていることはペトロには十分わかっていたのだと思います。13節には「門の戸をたたくと」と書かれています。戸をたたくではないのです。門の戸をたたくですので、立派な門構えがあった大きな家なのでしょう。当時のユダヤの一般庶民の家には門などなく玄関の戸を開けたら目の前が外というのがあたりまえですから、大きな裕福な家だと考えられます。その大きな家の門の戸をペトロは叩きます。強く大きな音を出さないと家の中には聞こえませんから、強くたたき大きな声で呼んでいたのです。**

**ロデという女中が戸をたたく音と声に気が付いて玄関を出て門の近くにいきました。強く門の戸をたたき叫ぶ声の主がペトロだと気づきました。ロデはあまりの喜びに門も開けないで家に駆け込み、門の前にペトロが立っていると教会の仲間に伝えました。**

**私はこの場面が面白くて好きなのですが、教会の人たちはペトロのために祈っているのです。ペトロが守られるように、無事に助け出されるように。皆で心を一つにして祈っているのです。ロデが「ペトロさんが門の前に立っている」と皆に伝えます。本来だったら、私たちの祈りが聞かれたと神様を讃美して皆で飛んで行って玄関を開けて、門まで走っていき門の戸を開けてペトロとの再会を涙ながらに喜ぶはずです。でも彼らはどうしたかというと、ペトロのために祈っている教会の仲間たちは、女中のロデに向かって「あなたは気が変になっている」と失礼な事を言い、さらには「それはペトロを守る天使だろう」と全く取り合わないのです。**

**何かコントみたいです。それって教会で「Aさんが無事に大学に合格しますように」と心を一つにして祈って、そのみんなで祈っている時に誰かが「Aさんが無事に合格したよ」と伝えたら、その伝えた人に向かって「そんなことあるはずがない。Aさんはそんなに勉強できないんだから」といって喜ぶどころか全く信じようとしないみたいなものです。何のために祈っているのかわからない教会の姿です。**

**それでもペトロは戸をたたき続けて仲間の名前を呼び続けたのです。それは2～3分という話ではないと思います。教会の仲間が門の戸を開けてくれるまでたたき続けた。ペトロがそこまでするのは教会の仲間に何とかして伝えたいからです。自分が牢から逃げ出せて救われたのは決して自分の力ではない、神様の御導きである。全ては主が牢から助け出して下さった、その喜びを伝えて分かち合いたかったのです。何度も何度も戸をたたき続けたペトロの手は赤くなり痛みもあったでしょう。それでもペトロはそれ以上の喜びをどうしても伝えたくて分かち合いたかったのです。そしてこのことをヤコブと兄弟たちに伝えるように言いました。このヤコブというのはイエス様の兄弟のヤコブであり教会の中心メンバーの一人です。そう告げたペトロはほかの所に行ったのです。**

**私は最初に「戸をたたくということは、基本的には家族ではない誰かが家の外にいて家の中の人に用事があるから戸をたたくのです。」と申しました。ペトロが門の戸をたたいたのはマリアの家で普段から教会の仲間が集まり礼拝や祈りや食事が行われていたところ、それはつまり教会です。ペトロは教会に入るのに門の戸をたたいたのです。私たち今日の礼拝で教会に招かれて集まっていますが、入り口の戸をたたいて入った人はいますでしょうか。インターホンを押してから入った人はいますでしょうか。今は寒いので戸は閉めていますがカギはかけていませんのでガラガラと戸を開けて入ってこられたと思います。平日の牧師不在時ならまだしも、教会で礼拝が行われるのにわざわざカギはかけません。なによりも教会は神の家族です。家族の家であり自宅であり実家です。先週の送別会の時に私は「教会は実家みたいなものですから」と言ったように、教会は「ただいま」と帰るところです。気兼ねなく帰ってくつろぐところです。安心できる場所です。ペトロはそんな実家に帰るのにまるで、他人のように門の戸をたたかなければならないというのは考えれば不思議なことだと思います。**

**では、なぜペトロはわざわざ門の戸をたたいたのでしょうか。それは門の戸に鍵がかかっているからです。ヘロデ王の迫害でヤコブが殺されペトロが捕らえられた教会はこれ以上の迫害を恐れて門の戸に鍵をかけていたのです。自分たちに迫害の手が及ばないように、いわば恐れから鍵をかけて外の世界から閉ざしていたのです。**

**イエス様が十字架につけられて殺されて復活されたその日に弟子たちは同じように集まって家の戸に鍵をかけていました。**

**ヨハネによる福音書20：19にこのように書かれています。「その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちはユダヤ人を恐れて、自分たちのいる家の戸に鍵をかけていた。そこへ、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。」**

**鍵をかける、防犯上の観点からすると安心です。迫害の手が及び自分たちが捕まえられたり殺されたりしないように鍵をかけておくことは安全なことでしょう。しかし、鍵をかけるということは、外の世界との分断を表すものでもあります。内と外を分けて「これ以上勝手に中に入ってこないで」という意思表示なのです。それが家の戸ならまだしも、外の門の戸にまで鍵をかけるというのは完全に外の世界と分断してしまっています。だから外で何が起きているのかわからないのです。自分たちは安全なところで心を一つにして祈っているのですが、外の世界に目を向けない、心に鍵をかけてしまっているので、いざ本当にペトロが神様によって助け出されて一生懸命戸をたたき続けても、その音にも声にも気が付かないのです。心に鍵をかけてしまった教会の仲間たちは、心の戸をたたき続けて神様の導きで救い出されたという喜びの知らせを伝えようとするペトロを受け入れようとしないのです。**

**喜びの知らせは言い換えれば福音です。福音を携えたペトロを心の戸に鍵をかけて閉ざしてしまっているのです。それでもペトロは決してあきらめずに心の戸をたたき続けたのです。必ず開けてくれることを信じてたたき続けたのです。**

**このペトロの姿はイエス様の姿です。ヨハネの黙示録3章20節にこのような言葉があります。**

**「 見よ、わたしは戸口に立って、たたいている。だれかわたしの声を聞いて戸を開ける者があれば、わたしは中に入ってその者と共に食事をし、彼もまた、わたしと共に食事をするであろう。」**

**イエス様は私たちの心の戸をたたき続けて下さるのです。「わたしの目にあなたは価高く、貴く、わたしはあなたを愛している」（イザヤ43：4）と私たちを愛して下さり、十字架の死と復活という喜びの福音を携えて、私たちが「これ以上勝手に中に入ってこないで」と心の戸に鍵をかけてシャットアウトの意思表示しても、ひたすらにたたき続けて下さるのです。私たちが必ず心の戸を開けてイエス様を迎え入れるその時がくることをイエス様は信じて、その時が来るまでひたすらにたたき続けて下さり私たちの名前を呼び続けて下さるのです。そして共に喜びの食事をしたいと思って下さっているのです。**

**レントのこの時私たちは改めて私たちを愛して下さるイエス様の愛に感謝をして、共に主の食卓の恵みに預かりたいと思います。**